

静岡県漁業協同組合連合会
1050 静岡市追手町 9-18
15.7.11 ☎ 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 農水省関係の食品安全5法が成立

農林水産省が提出していた食品安全5法（牛肉トレーサビリティ法(牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法) 農水省設置法改正案 食品の安全確保のための農水省関係法の整備法 飼料の安全性確保法及び品質改善に関する法律の一部改正 HACCP支援法改正(食品の製造過程の管理の高度化に関する臨時措置法の改正)が去る7月1日施行されました。

農水省設置法は、食糧庁を廃止し、食品・安全局を新設するとともに、地方組織も再編し、安全行政体制を強化したものです。

食品の安全性確保関係法の整備法は食品安全基本法の制定に伴い、肥料取締法、薬事法、農薬取締法、家畜伝染病予防法を一括改正し 資材の安全性確保、使用適正化、事故発生時の対応措置 厚生労働省との連携強化 罰則強化を図るとしています。

薬事法(施行は7月30日予定)では、未承認動物医薬品の使用禁止、食用動物への使用規制の範囲拡大が柱で、トラフグ養殖等で使用されたホルマリンは未承認のため使用禁止となります。また、罰則の強化(3年以下の懲役若しくは200万円以下の罰金)が規定されます。飼料安全法では、有害な物質を含む飼料の製造・販売・輸入が禁止されます。HACCP支援法は平成7年に制定された5年間の時限立法で、導入をさらに促進するため、適用期限を5年間延長します。

2. 水産加工品・生鮮冷凍品水産物の生産量まとまる

農林水産省統計情報部では去る6月10日、平成14年(1~12月)の水産加工品生産量及び生鮮冷凍水産物の生産量を発表しました。

それによると、昨年(13年)の水産加工品生産量は213万7千トンで、昨年に比べ5%減少しました。また、生鮮冷凍水産物の生産量は136万3千トンで、前年に比べ14%減少しました。水産加工経営体数は1万1,100経営体で、前年に比べ3%減少しました。

概要は次のとおりです。 水産加工品生産量(生鮮冷凍品を除く) 練り製品：生産量は67万6,600トン 内訳：カマボコ類 = 47万3,000トン 焼きチクワ = 14万1,500トン 魚肉ハム・ソーセージ = 6万2,100トン 冷凍食品：生産量は31万5,800トン 内訳：魚介類(切り身、むきエビ等の加工品) = 15万6,800トン 水産物調理食品 = 15万9,000トン 乾製品：生産量は34万2,300トン 内訳：煮干し品 = 8万2,700トン 素干し品 = 3万7,200トン 塩干品 = 22万2,500トン 塩蔵品：生産量は22万1,800トン 内訳：サケ・マス類 = 10万2,800トン サバ類 = 3万8,400トン タラコ・スケトウダラコ = 2万300トン 薫製品：生産量は1万2,600トン 節製品：生産量は11万6,300トン 内訳：節類 = 7万900トン 削り節 = 4万5,400トン 生鮮冷凍水産物生産量 内訳：サケ・マス類 = 12万3,700トン イワシ類 = 18万9,200トン サンマ = 11万9,000トン サバ類 = 18万6,000トン

3. ダイオキシン類の魚介類の蓄積調査結果を公表

水産庁は去る6月27日、平成11年度から平成14年度にわたって実施された魚介類中のダイオキシン類の蓄積実態調査結果を公表しました。

今回の調査対象魚介類(海藻類を含む)は魚類273検体、貝類49検体、甲殻類31検体、その他水産動植物70検体で可食部を調査したものです。また、平成15年度以降も650検体の調査を継続する方針です。

この調査は、水産庁が水産資源を安全かつ持続的に提供する観点から、我が国の主要な生産地等における魚介類中のダイオキシン類の蓄積実態の概要を把握するために、我が国の魚介類に係る食生活の実態を踏まえ、沿岸、沖合域、遠洋域および内水面で漁獲されるもの及び輸入魚介類を含めた、102種、423検体について実施したものです。

今回の実態調査結果は、ダイオキシン類の平均濃度が、1g当たり0.908ピコgとなり、人のダイオキシン摂取許容量は1日に体重1kg当たり1.63ピコg(体重50kgの人で81.5ピコg)となり、厚生労働省ではこの結果を踏まえ、この値は普通にバランスのよい食事を摂取していれば、健康に影響を与えるものではないとしています。

4. 船釣教室開催される

- 県遊漁船業協会 -

県遊漁船業協会(原剛三会長)では、船釣に対する関心を高め、新たな利用者の開拓を図るとともに、水産資源の保護培養と海の環境保全、更には海の利用に対する認識の高揚を図ることを目的として、去る6月25日大井川町漁港において当協会加入の大井川町漁協所属船10隻の協力を得て、船釣初心者を対象とした「初心者船釣教室」を開催しました。

当日は、雨が降るあいにくの天候となりましたが、県内から約90名が参加し、釣道具の取扱い方や乗船上の注意事項の説明を受け、大井川沖で遊漁船業者の指導のもと約3時間にわたりキス釣りを体験しました。

5. 新刊図書紹介 「渚ばんざい~漁村に暮らして~」 川口祐二著

全国各地の漁村を訪ねて聞き書きの旅を続ける作家、川口祐二氏の新著「渚ばんざい」がドメス出版社から発刊されました。

本書は「海辺の歳時記」(北斗出版社)、「苦あり楽あり海辺の暮らし」(同)、「潮風の道」(ドメス出版)の続編で、北海道から沖縄まで10漁村の暮らしが語られています。

著者の川口さんは三重県の漁村出身で、合成洗剤追放運動では先駆的な実践者で、漁村女性の日々の歩みから日本の漁業・漁村の変遷や漁村で暮らす人々の喜怒哀楽、漁業を取り巻く様々な問題などを描き出すことで定評があります。

特にJF(漁協)女性部の方々が読まれると、多くの共感が生まれるであろう一冊です。

定価：2,000円(税別) 発行元：(株)ドメス出版 TEL03-3944-5651

6. 諸会議・日程(7月15日(火)~7月28日(月))

- 既報分省略 -

7月16日(水) 県養鰻協会 = 生産記録様式検討会 (県水産会館)

7月18日(金) 県漁連 = 第4回理事会 (")

7月25日(金) 県漁業共済組合 = 理事会 (")

" 県機船底曳網組合 = 駿河湾操業調整会議 (信漁連沼津支所)